

はじめに

「日本の貿易依存度は22%で、世界銀行によると世界178カ国中175位」

この驚くべき順位は平成22年12月13日付日本経済新聞の記事である。

貿易依存度とは分母にその国の国内総生産(GDP)、分子に輸出額と輸入額の合計をとった数値で、その国の経済がどの程度貿易で支えられているかを示すものだ。記事によれば世界首位の香港の貿易依存度は354%で、中継貿易拠点として、域内生産の3.5倍の金額を輸出入している。同じ工業国として日本と競う韓国やドイツの貿易依存度は60%~80%に達し、自国経済とグローバル経済の結びつきは日本よりはるかに深い。

長年の間、貿易立国を国是として技術を磨き、時には貿易摩擦を引き起こすこともあった我が国だが、豊かになり高機能、高付加価値の工業製品を好んで購入できるようになった自国の消費者という環境に過剰適応した結果、グローバル経済から乖離した内向きの経済が出来上がってしまったとも考えられる。最近流行りのダーウィン流の表現によれば経済のガラパゴス化が進んだともいえる。自国経済に十分な規模と成長力があれば内省傾向が深まってもやっていけるだろうが、少子高齢化が急速に進む中で、グローバル経済との交流を怠れば先細りは避けられない。

福島県において状況は更に深刻である。平成14年1月に中小企業診断士協会福島県支部が実施した調査研究事業の報告書「福島県における産業構造の特質と地場産業に対する「金融」を中心とする経営支援のあり方に関する調査研究」には次のような記述がある。

「福島県の成長を支えてきた製造業は電気機械製造業に偏りが見られ、北関東のような業種の広がりが見られない。また、本社機能を持たない工場のみが進出が多いという特質がある。その結果、生産拠点の縮小や海外移転等により大きな影響を受けており、人口の社会減、雇用問題等の諸問題が他県よりも深刻になってきている。」

この報告書の当時より9年が経過し日本経済が内省傾向を深めている間にも、世界経済はインターネット技術を基礎とした革新によりフラット化を進めてきた。9年前、アジアの競争相手たちの主たる業務は縫製や工業製品組み立て等の労働集約的な業務が中心だったが、今や情報技術の進展は彼らにコールセンター等の知識集約型業務への門戸を開いた。今後もアジアで対応できる日本向けの知識集約型業務は増えていくだろうし、アジアにはそれを支えるだけの知識とハングリー精神を持った人材が幾らでもいる。

私たち調査研究プロジェクトチームは、こうした現状認識や危機感をベースとして今後の福島県経済ひいては日本経済の安定的発展のために必要なことは何なのか。

我々中小企業診断士として果たすべき役割は何なのかということを議論してきた。

その結果、グローバル環境変化への対応をすすめ、10年後の未来を見据えて何をすべきかという視点で経営を進めていくことが必要だという結論に達し、今回の調査研究テーマを選定したものである。

この「環境変化への対応」というテーマに基づき、平成22年10月30日には、福島大学の美馬武千代教授を招いて中小企業診断士協会福島県支部の研修会を開催した。そこでは、今後の日本経済に影響を与える環境要因として①国際化の進展、②IT、インターネットの普及、③先進国の経済停滞と新興国の経済成長、④環境問題（地球温暖化）、⑤少子高齢化等があげられた。

これらのテーマについては平成22年12月4日に福島市で開かれた産学連携の会計戦略研究会主催※の未来ビジネスフォーラムにて処方箋を模索する講演が行われ、調査研究プロジェクトチームも参加した。本調査報告は中小企業診断協会福島県支部と会計戦略研究会のコラボレーションにより生み出されたものである。

本報告書の第1章では10年後の未来を見据え、福島の中小企業診断士が調査研究により導かれた処方箋を踏まえた活動を行う未来展望をドラマ仕立てで行っている。美馬教授の問題提起と国際化の進展に関する講演内容については本調査報告書の第2章で、会計戦略研究会のメンバーによる各問題に関する講演内容は第3章で紹介する。第4章では経済統計資料分析を行い10年後の福島地域経済を予想する。第5章は本調査報告全体の内容を総括している。

プロジェクトメンバー一同、自分達の思いを込めた未来を思い描き、良き未来を実現するために、今すべきことを懸命に模索してきた。未来は現在の単なる延長でなく、ビジョンの実現に邁進する人間の努力の結晶である。私達が描いたビジョンが今後の中小企業経営を考える視点として、あるいは中小企業を支援する視点として何らかの参考になればと考えている。

最後に、本調査事業に際しベースとなる講演を行っていただいた美馬武千代教授をはじめとする会計戦略研究会の皆様、助言、指導をいただいた中小企業診断協会福島県支部会員の皆様に御礼申し上げますとともに、25周年を越えて新たな一歩を踏み出した中小企業診断協会福島県支部の更なる発展を祈念するものである。

平成23年1月

※ 会計戦略研究会:福島大学と東邦銀行が産学連携の一環で立ち上げた研究会。

社団法人中小企業診断協会 福島県支部

調査研究事業プロジェクトチーム代表
参加中小企業診断士

野尻 豊
遠藤 明
小林 清和
菅野 覚
監修 渡辺 正彦

目次

はじめに	
第1章 10年後の未来の断片	00
第2章 国際化の進展とビジネスの大転換	
福島大学教授 美馬武千代氏	00
第3章 未来ビジネスフォーラム講演録	00
IT／インターネットの普及発展に伴う経済・ビジネスの未来像	
1 東邦銀行 法人営業部公務・地域振興室 主任調査役 齋藤 康氏	00
2 先進国の経済停滞と新興国経済成長	00
3 地球温暖化対策はビジネスを変える	00
(1) 講演要旨	00
(2) 講演録	
福島大学経済経営学類4年生 園田 祐介さん、平間 萌さん、シュウ キンさん、 渡辺 六三四さん	00
(3) 講演に対する中小企業診断士からの書評	00
4 少子高齢化時代の新ビジネス	00
(1) 講演要旨	00
(2) 講演録	
福島大学経済経営学類4年生 渋谷 洋平さん、鈴木 麻実さん、出口 健太さん、 藤田 優貴さん	00
(3) 講演に対する中小企業診断士からの書評	00
第4章 10年後の福島県地域経済の姿	00
第5章 経済環境激変の時代を越えて	00
おわりに	



表紙写真：「10年後の未来」
溝口 泰信